

# 岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報  
(第136号)

## 岡山県中部高原地域3市町連携事業

岡山県内でベビーファースト宣言をした高梁市・吉備中央町・美咲町の3市町が、岡山県中部高原地域3市町連携事業として子育て支援などの連携を令和5年2月に開始し、1年が経ちました。

ベビーファーストとは、子どもを産み育てたくなる社会を実現するために、妊産婦をはじめ子育て世代が過ごしやすい環境を企業・自治体・個人など業種や業態に関係なく、自分にできることや自分たちにしかできないアクションを通して実現することを目指す運動です。(ベビーファースト ホームページより抜粋)

施策の中の一つに「図書館相互利用サービス」があり、令和5年8月1日より開始されています。3市町にお住まいの方はそれぞれの図書館で利用登録・貸出ができ、返却は相互返却にて3市町内どちらの図書館・分室でも返却できるものです。(利用登録に関しては、高梁市・美咲町はどちらにお住まいの方も登録が可能です。)

高梁市立図書館からの所感としては、お借り頂いた資料を、隣接する吉備中央町の図書館で返却されるという形で多くご利用いただいております。

相互返却サービスによって、より多くの方が気軽に図書館をご利用いただけるよう、また、ベビーファースト宣言をした市として、相互利用サービスのみならず施設内のサービス・イベントや接遇面など、多くの点から子育て世代をサポートできる図書館を目指します。



[チラシ]

**高梁市立図書館**  
高梁市地町 1196  
電話 086-42-2513  
開館 午前8時～午後8時  
休館日 年中無休

**成沢図書室**  
高梁市成沢町下原 668  
電話 086-42-2583  
開館 午前8時～午後5時  
休館日 毎週月曜日  
年末年始

**川上図書室**  
高梁市川上町下原 1823  
電話 086-48-2203  
開館 午前8時～午後8時  
休館日 毎週土曜・日曜・祝日  
年末年始

**有漢図書室**  
高梁市有漢町南 3197  
電話 086-57-2013  
開館 午前8時～午後5時  
休館日 毎週月曜(月曜空日)・祝日の場合は空日  
年末年始

**備中図書室**  
高梁市備中町南町 29-2  
電話 086-45-4515  
開館 午前8時～午後5時  
休館日 毎週土曜・日曜・祝日  
年末年始

**吉備中央町かもがわ図書館**  
加賀郡吉備中央町下加茂 1073-1 階 階 火曜～金曜  
電話 0863-34-1115  
開館 午前10時～午後8時  
休館日 毎週月曜日  
土曜・日曜

**ロマン高原かよ図書館**  
加賀郡吉備中央町吉野1-2  
電話 086-54-1031  
開館 午前8時～午後8時  
休館日 毎週月曜日  
毎月第1日曜・11日  
特別整理期間(年間5日程度)

**美咲町立中央図書館**  
美咲郡美咲町下 446-1  
電話 0863-49-7151  
開館 午前10時～午後8時  
休館日 毎週月曜日  
毎月第1日曜

**美咲町立旭図書館**  
美咲郡美咲町西川 1131-1  
電話 0863-27-9113  
開館 午前10時～午後8時  
休館日 特別整理期間(毎月1回)  
年末年始

**美咲町立緑陽図書館**  
美咲郡美咲町西 1131-1  
電話 0863-44-7055  
開館 午前10時～午後8時  
休館日 特別整理期間(毎月1回)  
年末年始

[相互返却は3市町内どちらの図書館でも可能です。]

(高梁市図書館 佐藤ちえみ)

**加藤休ミさんのワークショップを  
開催しました！  
—新見市立中央図書館—**

令和5年8月6日(日)、絵本作家の加藤休ミさんを講師にお招きし、親子を対象にしたクレヨン画のワークショップ「おおきな魚をかこう！」を開催しました。

■加藤休ミさんのご紹介

加藤さんは北海道釧路市のご出身で、現在は岡山県倉敷市を拠点に絵本やイラストの制作、日本全国の図書館・書店でのワークショップ、個展の開催など、日々精力的に活動されています。著書に『フライパンヤア』(講談社)、『きょうのごはん』(偕成社)などがあり、クレヨンとクレパスを使った豊かな表現力で描かれる加藤さんの絵本は、当館でも大変人気です。

■ワークショップについて

夏休みのイベントということで涼しげな「魚」を題材に、参加者全員で協力して1匹の巨大な魚を制作するという企画となりました。

さて、イベント当日。集合時間より一足早く、加藤さんが大きな白い厚紙にクレパスで色塗りを始めました。好奇心旺盛な子どもたちが「何をしてるの?」と加藤さんの手元を覗き込みます。

「一緒にやってみない?」と声をかけると、みんな喜んでクレパスを握り、色を塗ったり、自由に絵を描いたり、イベント開始時刻を前に大盛り上がり!すっかり塗り潰された厚紙をハサミで切ると、魚の「頭」と「尾」の完成です。



[魚の頭と尾を制作中]

絵本『たぬきのひみつ』(福音館書店)の読み聞かせでは、シュールな物語に大人も子どもも大笑い。「だれにもいっちゃいけないよ」と告白される動物たちの秘密・・・実はおへそがたこ焼きだったタヌキ、しっぽがエビフライだったりスなど、動物たちのおかしな秘密に会場は驚きと笑いに包まれました。

楽しい読み聞かせのあとは胴体部分の制作です。骨の形に切った長さ70センチの大きな厚紙28本にクレ



『たぬきのひみつ』読み聞かせ]

ヨンで色を塗り、台座に貼り付けます。さらに、習字に使う半紙を魚のうろこに見立てて、こちらにも色を塗ります。薄く破れやすい半紙に悪戦苦闘しつつ、骨に肉付けするように約150枚のうろこを貼り付けると、だんだんと立体感がでて魚らしい姿になっていき、縦1m×横5mの大きな魚が完成しました。可愛らしい絵が描かれたうろこ、レース編みのように繊細に切り抜かれたうろこなど、自由な発想が組み合わさり、世界で一匹のカラフルでユニークな魚になりました。



[世界で一匹のおおきな魚]

本イベントをきっかけに加藤休ミさんの作品に触れ、絵本の魅力を再発見してもらえることを願いながら、今後も絵本と人が繋がるイベントの充実を図っていきたいと思います。

(新見市立中央図書館 富部景子)

## 開館25周年記念ワークショップ

「加藤休ミ先生と25枚のウロコでたたみの魚をかざろう！」

期日：令和5年11月19日(日) 14:00～15:30

参加者：35名

場所：早島町町民総合会館ゆるびの舎研修室

早島町立図書館開館25周年の記念セレモニーの後、クレヨン画家 加藤休ミさんによるワークショップを開催しました。

最初に加藤さんのご著書『たぬきのひみつ』をご自身に読み聞かせしていただき、参加者はたちまち加藤ワールドへ。

その後、事前に加藤さんがゴザに描いた鮮やかな魚を完成させるべく、参加者は白いウロコ(半紙)にクレヨンで思い思いに色を付けたり、絵を描いたりしていきました。思い余って、加藤さんの描いた魚やゴザにも色を付けていく子どもたちも。それぞれのウロコをゴザに貼り付けてカラフルな記念魚が完成！



[ワークショップの様子]

多くの方に見ていただけるように会館入口のエントランスホールに飾りました。

完成した魚を見上げて、参加者やスタッフから自然に笑顔と拍手が湧き起こり、記念ワークショップは大成功のうちに閉会しました。

すてきな25歳のお誕生日を迎えることができた早島町立図書館。今後とも皆様に愛される、開かれた図書館を目指します。どうぞよろしくお願いたします。

(早島町立図書館 堀七美)

## 令和5年度第3回県立図書館ボランティアスキルアップ講座に参加して

「加藤休ミが絵本を描くことは、  
クレヨンで描くこと。」

講師：加藤 休ミ氏 (絵本作家)

期日：令和5年9月15日(金)

絵本作家として活躍する加藤休ミ氏の作品は、全てクレヨンとクレパスのみで描かれています。持参された大きなたいやきの原画からは、質感や味までもが伝わってきて、思わずかぶりつきたくなるほどでした。

リアルな絵を描かれる加藤氏ですが、取材の時には基本的にスケッチはせず、記録程度に撮影した写真と、自身の記憶から描いているそうです。写真やスケッチでは、生の記憶が飛んでしまうからとのことでした。『おさかないちば』(講談社)制作の際には、事前に時代背景などの情報を頭に入れてから、築地市場で2、3度取材をされたそうです。エビを扱う人の手が摩耗して指紋がなくなっている様子、腰が曲がりっぱなしになったお婆さんなど、作品に取り入れたい情報を、時間や場所に囚われず1枚に入れ込めるのが絵画の良さだとおっしゃっていました。

また、『きょうのごはん』(偕成社)など、料理の絵が登場する作品を多く出版されていますが、描く食べ物はできるだけ実際に作り、作れない場合にも必ず自分で食べてから制作に取りかかるそうです。「作品を見て、食べた時の感覚が甦れば、その作品は完成。」という言葉が印象的でした。他にも、『りきしのほし』(イースト・プレス)などいくつかの作品を取り上げ、制作のきっかけや、その作品で大切にしたことなど、制作秘話をお伺いできました。

その他、『ぼーるとぼくとくも』(風濤社)の読み聞かせの実演や、新見市立中央図書館で開催された子ども向けのワークショップでのお話などもあり、充実した内容で有意義な時間となりました。

(岡山県立図書館 高橋香耶)

**「小矢田城」(勝央町)  
～最後の城主の足跡をたどる～**

当館所蔵の郷土資料『勝間田町誌』から始まった「小矢田城」に関する新たな発見が、勝央町の歴史ファンを沸かせました。この発見は、息もつかせぬドラマチックな展開をみせ歴史の新たな一面が浮かび上がっています。

小矢田城に焦点を当てて紹介していきます。

JR 勝間田駅の東に位置する小矢田城は、JR 勝間田駅の東にある東吉田地区と小矢田地区の間の滝川右岸に位置し、標高約 160m の城山山頂付近にあり、北側を滝川に接しています。

南北朝時代に播州・美作の守護職赤松家の一族である戸倉弾正政祐によって築城されました。その後、戸倉氏が 98 年にわたってこの城を治め、嘉吉元年(1441 年)には京都で将軍足利義教を殺害する事件が発生し、これが歴史の転機となりました。幕府は山名教清に赤松家の討伐を命じます。赤松家に連座している戸倉氏は、山名氏に降伏し、城を明け渡して滅亡します。

戸倉家の後には山名教清の家臣である塩見判官貞満がこの地の地頭職に就き、名称を「戸倉城」から「小矢田城」に改名します。その後 5 代にわたり塩見家が治めます。

天文 13 年(1544 年)には尼子晴久の軍勢が作州を侵略します。塩見氏は後藤氏や他の領主との同盟も裏切られ、小矢田城は孤立し、尼子勢の先手は小矢田城に攻め込みます。塩見家 5 代城主貞盛は、籠城戦を諦め、城に火を放ち 2 子と共に城を落ちました。一方、3 代城主貞兼の子仙千代丸は家臣とともに勝間田村に逃れます。5 世 116 年にわたる歴史が滅びます。

その後の小矢田城は、天正 5 年(1577 年)には宇喜多直家の家臣、宮本左衛門長資が城を修繕し、後藤家の勢力に対抗しようとした。しかし、夜襲に遭い長資は自殺し、城は完全に廃城となりました。

最近の発見では、勝央町文化財保護委員長赤木耕三氏を中心に行った調査により、歴史の中に埋もれていた史実と事実が結びつきました。

まず、小矢田城は存在していたこと。次に仙千代丸を保護した家臣、下山家に残る下山家文書(町重要文化財)の解読作業をおこなっていたところ、江戸期の古文書には、当主の妻が仙千代丸の位牌を発見していたこと。そして、現在、実際の位牌が確認されたこと。後世の郷土資料の多くには仙千代丸のその後は不詳とされていました。

また、この発見により彼が、元龜 2 年(1571)に生まれ、寛永 20 年(1643)勝間田村にて 72 歳で亡くなっていたことが新事実として判明しました。

あわせて、専門家の鑑定の結果、下山家の守護仏が安土桃山時代の作であり、大変貴重なものであり、これらは、勝央町の戦国史を確かなものとして語れる証拠となりました。

令和 6 年 2 月 24 日にこれらの新事実のお披露目として「最後の領主の足跡を辿る歴史探訪ウォーク」(勝央町文化協会・勝央町教育委員会主催)が開催され、参加者は、古の歴史に思いを馳せました。

これにより、小矢田城の歴史における新たな章が刻まれることとなりました。

この続きは、当館所蔵資料にて、探求されることをお勧めします。

[イベントチラシ]

最後の城主の足跡を辿る 新発見あり!!  
**歴史探訪ウォーク**

【当日受付】9:30～  
【時間】10:00～12:30(予定)  
【集合場所】特別養護老人ホームあかり園(勝間田地区)  
【参加費】無料

定員 100名  
ルート 小矢田(途中)石巻と大塚遺跡(出土品展示)→(途中上郷と天神橋)→小矢田城址(「戸倉」山頂一帯神社一軒屋より眺望)→(途中)大塚遺跡  
備 備 多量な写真撮影(カメラ、ビデオ)、防寒具、運動靴  
持参物 軍刀、扇子、タオル、お茶  
その他各自必要なもの(杖、カメラ、筆記用具、スウェット等)  
※当日受付のみ、事前申し込みは不要です。  
※雨天中止です。当日は天候を要確認いたします。  
※雨天中止 中止の場合は、参加費から返金いたします。

主催 勝央町文化協会・勝央町教育委員会  
協賛 勝央町文化協会・勝央町教育委員会  
申込先 勝央町文化協会 勝央町教育委員会  
TEL: 0868-38-4100 FAX: 0868-38-4100

申込者  
氏名  
年齢  
電話番号  
〒

参加申込書  
受付時間: 10:00～12:00



[小矢田城山頂]

(勝央図書館・関 瞳)

## 倉敷芸術科学大学図書館の リノベーション

倉敷芸術科学大学図書館は大学創設から28年が経過したところで、蔵書数が約11万冊を超え、<sup>きょうあいか</sup>狭隘化の声も年々大きくなり、ついには新たな図書の購入もままならないところまで来ていました。その<sup>きょうあいか</sup>狭隘化の声に対して、今回の計画が持ち上がったのは、7月でした。移動書架にあった製本雑誌約2万冊と紀要5千冊を廃棄し、その空いたスペースに図書を移動、また、1階を多目的スペースとして再活用する案も今後、検討したいということになり、1階の図書をすべて2階に集約するというものです。期間は7月下旬から9月下旬、9月の後期の授業開始日までに図書館の利用再開ができることが目標でした。

### ■約7万冊の図書の移動

最初に行ったのは図書の除籍でした。除籍後に図書を移動する予定でしたが、書架の移設が9月上旬に決まったため、除籍作業を続けながらの図書の移動となりました。図書の移動については約5万冊を1階から2階に移動し、元々2階に排架されていた図書約2万冊を移動書架の空きスペースに移動する作業となりました。約7万冊の図書の大移動です。図書の移動には学生アルバイト約40名が加わりました。学生アルバイトの作業シフトの作成や3つの作業チーム（箱詰、集荷・段ボール箱回収、段ボール箱作成）に分けるなど作業効率と熱中症予防対策も考慮しました。図書の箱詰は、段ボール箱に約30冊、棚1段分を入れるようにして、大型本は大型本のみで箱詰するようにしました。段ボール箱の側面には請求記号を記入し、箱詰が完了した段ボール箱を再排架する2階の集荷スペースに運ぶことにしました。分類番号ごとに箱詰を行う予定でしたが、学生アルバイトが2名1組で一斉に箱詰を行うため、分類番号ごとでは作業が

難しいことから箱詰ができた段ボールを集荷スペースの集荷係が分類番号別に、請求記号の昇順で置くなどして再排架を意識しました。約4日間で1階から2階の図書の移動作業を終えることができました。1階の作業と並行して2階の排架していた図書を移動書架へ再排架を行いました。こちらはブックトラックでの運搬になりました。移動書架の特性上、大人数での作業ができないことから、書架掃除担当、再排架チーム（2名1組）、排架図書のブックトラックへの積替えチーム（2名1組）で作業をしました。

### ■再排架に向けて

今まで大型本や通常サイズの図書が書架にうまく収まるように排架してきたことから、「どこに本があるのかわからない」といったご意見が多くありました。そのことも踏まえての再排架にしました。基本は、棚板の右側15cmには図書を排架せず、続きは次の棚に排架することにし、一番下の棚は排架の半分までにしました。棚に余裕をもたせることで図書が増えた場合に対応できると考えました。

芸術分野の図書が多い本学では大型本の排架が特に大変でした。排架してはやり直し、棚を丸ごと入れ替えてみるなど試行錯誤を繰り返しながらすべての図書を再排架して、後期の授業



[再排架した図書]

開始日までに間に合わせることができました。

図書館利用者には一般の利用者も含まれるため、すべての利用者にとってわかりやすい図書館を今後も目指していきます。

(倉敷芸術科学大学図書館 名田真由美)

## Nagi Moca フェスティバル

奈義町立図書館では10月21日に「Nagi Moca フェスティバル 2023」を開催しました。このイベントは図書館が奈義町現代美術館との複合施設であることから、館内を縦横無尽に一日楽しんでもらおうと昨年度から実施しているものです。

その前身として「絵のある本マルシェ」を令和3年度に開催しました。このイベントについては町内の読書活動グループから提案、要望があり実現したものです。毎年秋の読書週間の時期に図書館で行う「図書のリサイクル市」の開催にあたり、せっかく多くの人が本を楽しむために図書館を訪れているので、館内で終結せずに施設の外も会場にして、本をテーマにしたマルシェを開催して、図書館の中でも外でも本を楽しんでもらうイベントができないだろうかとの相談を受けたのがきっかけでした。そうした思いから実現した「絵のある本マルシェ」開催の当日は、図書館内では本のリサイクル市、屋外の会場では町内外から古本やリサイクル本が集まり、また図書館からも本の表紙をずらりと並べる「絵の本ひろば」を実施しました。休憩できるカフェスペースもあり盛況な催しとなりました。そしてその翌年に美術館も含め施設全体を会場にして開催したものが「Nagi Moca フェスティバル」です。

今回美術館では音楽家 山口ともさんによるワークショップと演奏会、美術家 中島麦さんによるトークイベントを実施しました。美術館前の芝生広場では「絵の本ひろば」、町内外から出店された古本市、NHK岡山放送局の防災ブースによるVRでの疑似体験コーナー、地元の方も含めた約30店舗のマルシェ（飲食ブース等）が設けられました。また図書館内ではNHK岡山放送局のアナウンサーによる朗読会を午前と午後に分けて行いました。午前は子どもを対象にした絵

本の読み聞かせを行い、防災ブース出展にあわせ、防災絵本の読み聞かせも行いました。また午後からは一般を対象にした朗読会を行いました。町内の朗読サークルのメンバーも加わって、岡山デスティネーションキャンペーンにあわせて原田マハさんが書き下ろした小説『晴ればれ、岡山ものがたり』の朗読を行いました。岡山を舞台にした全5話のうち最初に朗読サークルのメンバーの方に県北が舞台の物語を、そして最後に後楽園が舞台の物語をアナウンサーに朗読いただきました。身近な観光地や風景が舞台となった物語が読み上げられると、参加された皆さんは静かに耳を傾けておられました。また朗読会の会場は図書館内の中央スペースに設けることとなりましたが、たくさんの本に囲まれた空間で聞く朗読は、普段とはちがった味わい深いものとなりました。

芝生広場で開催した「絵の本広場」では多くの親子連れが自由にお気に入りの絵本を手にとって楽しむ様子が見られました。また地域の読書グループによる本の読み聞かせや古本市も行われました。美術館内で開催されたワークショップや演奏会では会場が一体となって音楽を楽しむ様子が見られ、参加者が施設全体を思い思いに楽しむと同時に、人々が本や美術、音楽を通して交流し、触れ合う一日となりました。

これからも地域で活動されている皆さんと一緒に、図書館や美術館が身近な施設として利用してもらえるよう、そしてそれぞれの機能を發揮し、住民の皆さんの豊かな暮らしにつながるような取り組みを考えていきたいと思っております。



[朗読会]

(奈義町立図書館 飯綱陽子)

## 令和5年度岡山県図書館協会 研修参加助成事業報告書

研修名：第109回全国図書館大会

岩手大会

期 日：11月16日（木）～17日（金）

### 記念講演

「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」

講師：国立天文台 水沢 VLBI 観測所所長/教授  
本間希樹氏

本間氏は、ブラックホールの写真撮影に成功しています。科学者としてブラックホールについて話されましたが、公共図書館の統計や自著などに、本や図書館にも近づけての話でした。

特に最後に、研究者から見た図書館について、「研究者は論文を書いて発表し、研究成果の最終形態は図書館へ行く。最近では映像も音楽も図書館へ行く。図書館は人類が長年かけて蓄積してきた知的成果物の宝庫だが、利用者が引き出さなければ価値がなく、『情報のブラックホール』になってはいけない」、と力説されました。

ブラックホールとは、強い重力のため、光さえ脱出できない暗黒の天体で、入ったものをすべて飲み込むものです。その写真はブラックホールの存在を視覚的に示したこと、銀河の中心にある天体がブラックホールであることが確実になったこと、100年の疑問に終止符を打てたことに意義がある、とのことでした。

### 第4分科会 児童サービス(1)「子どもと本とのよい出会いを」

基調講演で、公益財団法人東京子ども図書館理事長の張替恵子氏が、東京子ども図書館の設立当初からのあゆみを話されました。途中、学校図書館の貧困さや現在の図書館職員の身分に関しても強調されました。松岡享子氏は、「学校図書館が問題」、「図書館で一番大切なことは本を選ぶことで、10人いたら1人か2人を本好き

にすることが大切」と言われていたそうです。

また公共図書館では1990年以降の配置転換や委託で、異動や雇用切れがあり、児童図書館員としての専門性が行政のしくみに反映されないことを憂いておられました。

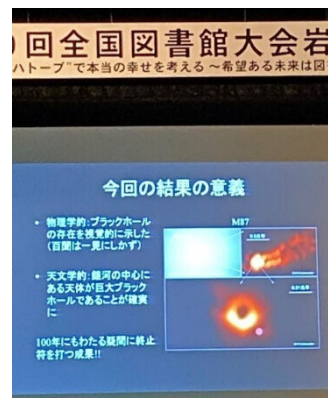
### 第7分科会 図書館の自由「戦争と図書館」

基調報告として、沖縄国際大学の山口真也氏が、統一教会関連団体刊行物や拉致問題に関する図書充実の協力等の要請、資料収集・提供の自由をめぐる出来事、マイナンバーカードによる図書館利用や「耳をすませば」の実写映画化などプライバシー保護をめぐる出来事、検閲・表現の自由や出版をめぐる出来事について話をされました。その後、戦時下の図書館活動の講演が3本ありました。

### 図書館大会参加の疑問と成果

「児童サービス」で、昔話が大切とか読み継がれているのが良い本という言葉が多数出ました。が子どもの実態が変わってきているなか、読み継がれている本が本当に良い本なのか？という疑問が残りました。現にこの十数年で、子どもたちが手に取る本がガラッと変わったと思うのですが、そこに気が付いておられるのだろうか？と逆に不安も感じました。

話し方に関しては、「図書館の自由」①の講演が聞き取りやすく、パワーポイントの使い方も見やすく、上京した折には、三康図書館に足を運びたいと思えるもので、参考になりました。



[記念講演 本間氏のスライド]

(岡山市立蛍明小学校図書館 池田桂子)

## 第97回教養講座に参加して

「空間の「音」を整え「いごちと安心」をつくる  
～自然音源の「ゆらぎ」で自律神経を整える～」

講師：榎本 誠也氏（株式会社 JVC ケンウッド  
メディア事業部エグゼクティブプロデューサー）

「図書館での感性デザインの適応と事例」

講師：柳川 舞氏（一般財団法人 KANSEI  
Projects Committee 代表理事、株式会社 KANSEI  
Design Limited 代表取締役、NEKIRIKI  
Production 株式会社取締役）

期日：令和5年11月10日（金）参加者：60名

図書館に入ったとき、そこがリラックスできる空間であることはとても重要だと思っているので、受講をととても楽しみにしていました。

当日、緊張しながら会場に足を踏み入ると、天井のほうからは鳥の囀りが、足元からは川のせせらぎの音が聞こえてくるといふ、素敵な空間に迎えられました。肩の力がふっと抜け、居心地のよい空間の大切さを実感しました。

講座ではまず柳川先生から、香りを活用して、図書館や職場を「作業をする場」から「人が集う場」に作りかえていく取り組みについてお話がありました。空間に香りを活用したときの脳波、その空間での滞在時間や会議での発言数などの変化を測定することで、目に見えにくい効果を数値で示してくださいましたので、説得力がありました。たくさんの事例紹介があったので、できそうなことから実践していきたいです。

続いて、榎本先生からは、生涯の約9割を建築空間内で過ごす人間にとって、良い建築空間は、健康・知的生産性・幸福度等の向上につながるという思いで開発された「K o o N e（クーネ）」に関連するお話をしていただきました。自然界に近い豊かな音（可聴領域以外の音を含む）が流れる空間では、作業効率やリラックス度が上がるということが実証されている（そこに植栽が加

わると更に上がる）そうです。会場に流れる音のおかげで、榎本先生が「試しに」と沈黙されたときも全く気まずい雰囲気にならず、会議等で大変有効だなと感じました。それぞれの人にそっと寄り添うような空間づくりについて、たくさんのヒントをもらえた講座でした。

（岡山県立倉敷青陵高等学校 稲葉三千代）

## 事務局からのお知らせ

### ■令和5年度セミナー・教養講座の資料の提供

今年度開催されました、県図協セミナー（第1～4回）、第97回県図協教養講座の資料をご提供しています。研修へご参加いただけなかった方へのご提供も可能ですので、必要な方は事務局までご連絡ください。

### ■異動調査

本年度も例年どおり異動調査を行います。所属・住所等の移動があった方は事務局までご連絡ください。また、入会・退会をご希望の方も併せてお知らせください。

### ■令和6年度研修奨励金の募集

現在、令和6年度の研究奨励金の交付申請を募集しています。図書館に関する研究であれば、広く交付対象となります。皆様のご応募をお待ちしております。

申請期限：令和6年3月22日（金）

（詳しくは岡山県図書館協会ホームページ掲載の要綱をご覧ください。）

令和6年3月1日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 大西 治郎

TEL：086-224-1269